

経済情報

米銀貸出態度調査（2011 年 1 月）の結果 ～貸出基準の緩和が続く中、資金需要も回復～

【要 旨】

- ◇ 連邦準備制度理事会（FRB）の融資担当者調査（3 ヶ月ごとに年 4 回実施、今回は 1 月調査。米銀 57 行、外銀 22 行が対象。調査期間は 12/22～1/11。）の結果が発表された。
- ◇ 企業向け貸出では、商工業貸出で貸出基準緩和の動きが進むとともに、資金需要が大きく改善した。商業不動産貸出でも貸出態度厳格化の動きに歯止めがかかり、資金需要は回復傾向が強まっている。
- ◇ 個人向け貸出では、住宅ローンで貸出基準の緩和が遅れており、資金需要も減少基調が強まった。一方、消費者ローンでは貸出基準緩和の動きが続き、資金需要も増加超に転じている。
- ◇ 米銀の貸出資産の質は商工業向け貸出を筆頭に改善が進む見通しである。今後は、「景気回復→貸出資産の質改善→貸出基準の緩和→景気回復」という好循環が続くことが期待される。

1. 企業向け貸出：貸出基準の緩和が進むとともに資金需要が回復

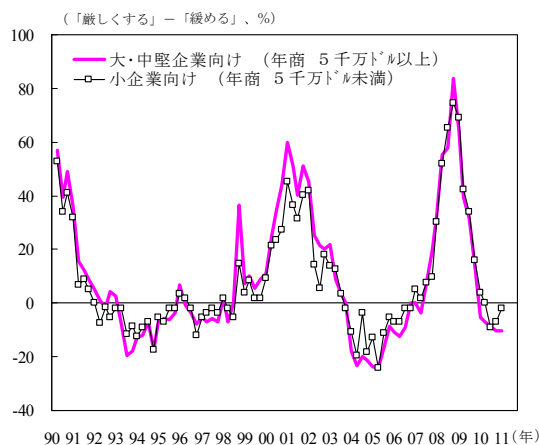
① 商工業貸出

商工業貸出では、前回調査に続き貸出基準の緩和が進んだ。大・中堅企業向けでは、3 ヶ月前と比べて貸出態度を「厳しくした」銀行の割合から「緩和した」銀行の割合を引いたネットの比率は前回と同じく▲10.5%となり、5 調査連続で「緩和超」となった（第 1 図）。小企業向けでも同比率は▲1.9%と 3 調査連続の「緩和超」となったが、超過幅は縮小した。貸出基準は具体的な条件でも緩和の動きが進み、例えば貸出スプレッドを拡大した銀行のネットの比率

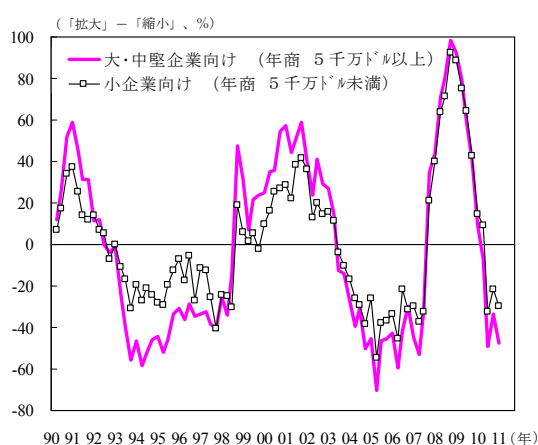
は、大・中堅企業向けで▲47.4%、小企業向けで▲29.6%と、ともに「縮小超」幅が拡大した（第2図）。貸出基準緩和の理由では、ほとんどの銀行が「他行との競争の高まり」、「経済見通しの好転」をあげている。

一方、資金需要は大・中堅企業向けを中心に大きく改善した。「資金需要が増加した」との回答比率から「減少した」を引いたネットの比率は、大・中堅企業向けで前回調査の▲7.0%から28.1%へと上昇、大幅な「増加超」に転じた。小企業向けでも前回の▲21.4%から5.6%へと「増加超」に転じている（第3図）。資金需要が回復した理由としては、8割近い銀行が「M&A 資金需要の増加」、5割強の銀行が「他行からの借換え」をあげる一方、「在庫・設備投資資金需要の増加」をあげた銀行は5割弱に止まっており、実体経済の回復がまだ本格的な資金需要の増加につながっていないことが窺われる。

第1図：米銀商工業貸出の貸出基準

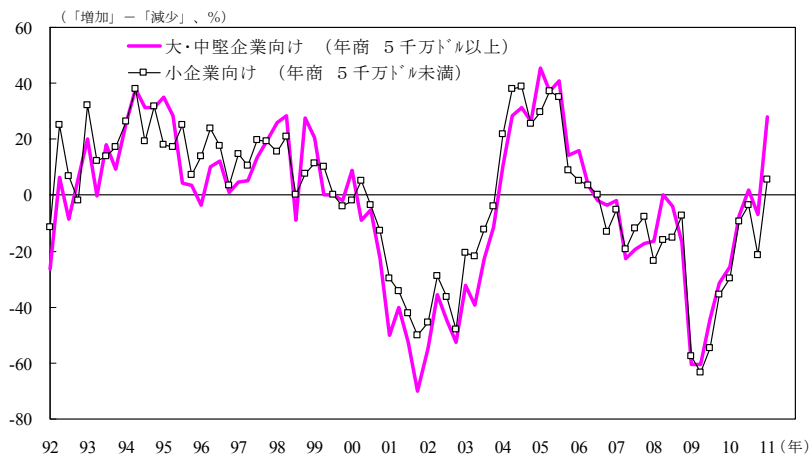


第2図：米銀商工業貸出のスプレッド



(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第3図：米銀商工業貸出の資金需要



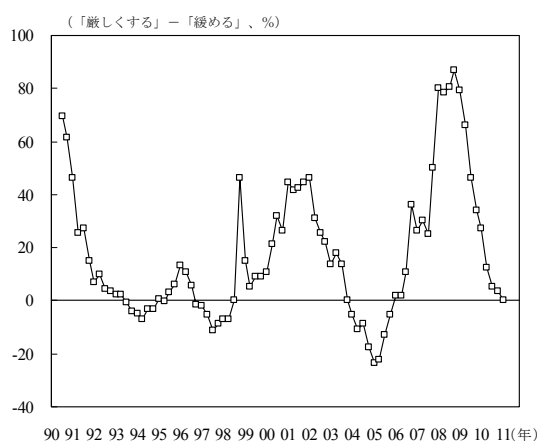
(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

② 商業不動産貸出

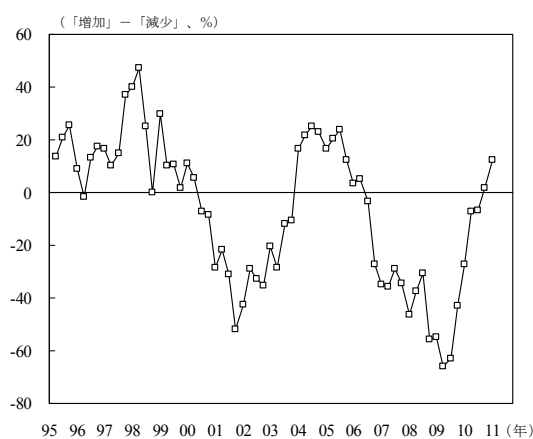
商業不動産貸出では、貸出態度を厳しくした銀行のネットの比率は前回調査の3.6%から0.0%へ低下。貸出態度厳格化の動きに歯止めがかかった(第4図)。貸出基準を緩和した銀行の数も前回の2行から6行に増加した。

資金需要は、「増加した」との回答比率から「減少した」を引いたネットの比率が前回の1.8%から12.3%へと「増加超」幅が大きく拡大し、2005年11月調査以来の水準に回復した(第5図)。もっとも、商業不動産市況は依然、底這いの動きが続いており、先行きについては不透明感が残っている。

第4図：商業不動産貸出の貸出基準



第5図：商業不動産貸出の資金需要



(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

2. 個人向け貸出：住宅ローンと消費者ローンで明暗

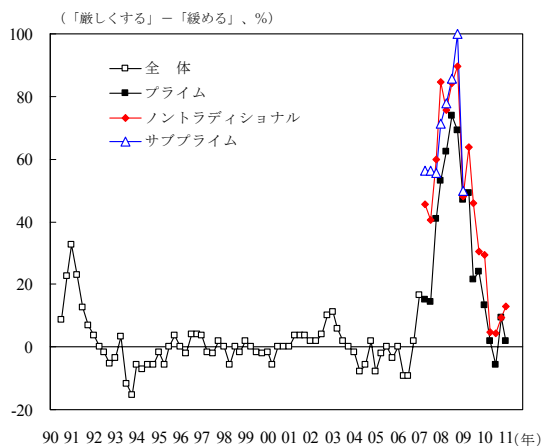
① 住宅ローン

住宅ローンの貸出基準は、緩和の動きが遅れている。3ヵ月前に比べて貸出態度を「厳しくした」銀行のネットの比率は、信用力の相対的に高いプライム向けで1.9%と2四半期連続で「引締め超」となった。また、非伝統的な住宅ローン向け^(注)では9.5%から13.0%へと「引締め超」幅が拡大した(第6図)。さらに、ホームエクイティ・ローンでも同比率は3.6%と「引締め超」の状態が続いている。

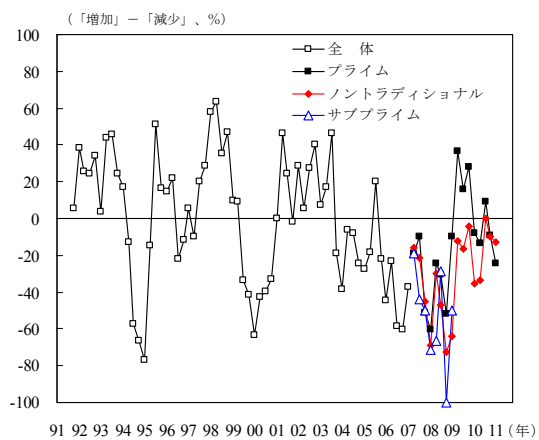
(注) 数年間、元本返済を先送りする「インタレスト・オンリー・ローン」など

一方、資金需要も住宅販売の低迷を背景に減少基調が強まっており、「資金需要が増加した」との回答比率から「減少した」を引いたネットの比率(プライム向け)は、前回の▲9.3%から▲24.1%へと「減少超」が大きく拡大している(第7図)。

第6図：住宅ローンの貸出基準



第7図：住宅ローンの資金需要



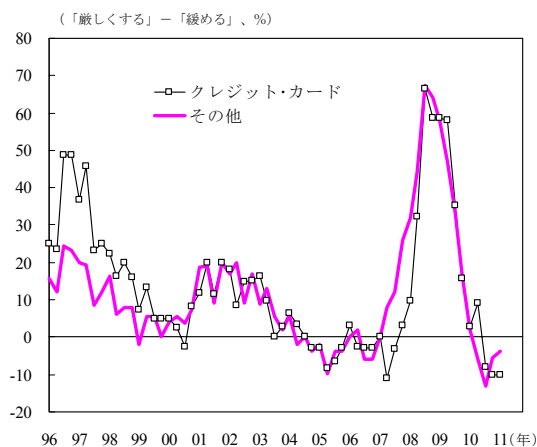
(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

② 消費者ローン

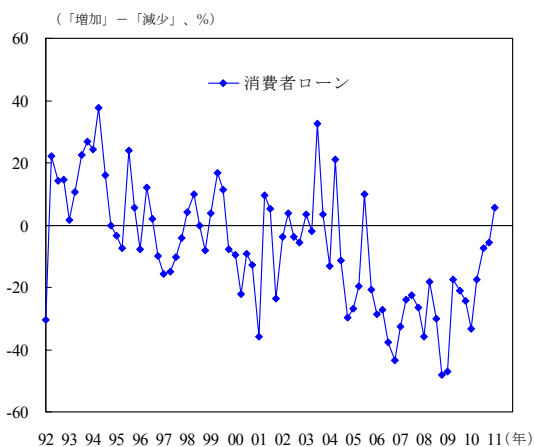
同じ家計向けでも、消費者ローンでは貸出基準を緩和する動きが続いている。貸出基準を厳しくした銀行のネットの比率は、クレジット・カードが▲10.0%と前回調査と同じ「緩和超」幅を維持した。クレジット・カード以外の消費者ローンでも▲5.5%→▲3.7%と「緩和超」幅こそ縮小したものの4調査連続で「緩和超」となっている(第8図)。

資金需要は改善傾向が強まっている。「資金需要が増加した」との回答比率から「減少した」を引いたネットの比率は前回調査の▲5.6%から5.6%へと2005年8月調査以来の「増加超」に転じた(第9図)。

第8図：消費者向けローンの貸出基準



第9図：消費者向けローンの資金需要



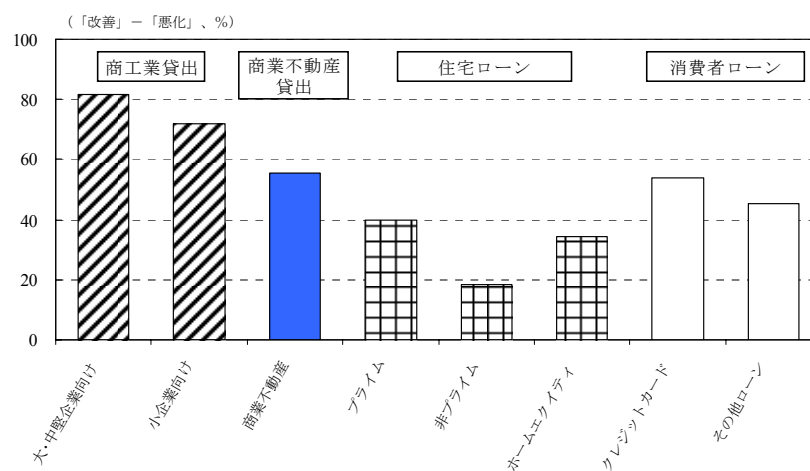
(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

3. 「貸出の質」は企業向けを中心に改善を見込む

以上のように、米銀の貸出基準は住宅ローンを除き、緩和の動きが進んでいるが、その背景にあるのが「貸出資産の質」の改善である。今回は、例年通り「景気がコンセンサス通りに展開した場合、今年の貴行の貸出資産の質はどうか？」との設問が加わった（5年前から年1回のペースで実施）。結果をみると、これまでの調査に比べて大幅に楽観的となっており、全ての貸出資産で質の改善が見込まれている。特に、商工業貸出では大・中堅企業向けで8割強、小企業向けで7割強の銀行が改善を見込んでおり、悪化を見込む銀行の数はゼロだった。なお、もっとも改善が遅いとみられているのが住宅ローンで、特に非伝統的ローンの遅れが目立っている（第10図）。

足元で景気は徐々に明るさを増しているが、今後「景気回復→貸出の質改善→貸出基準の緩和→景気回復」という好循環が続くことが期待される。

第10図：今年「クレジットの質」が改善すると回答した銀行の比率（ネット）



(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

(H23.2.1 山中 崇 takashi_2_yamanaka@mufg.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

発行：株式会社 三菱東京UFJ銀行 経済調査室

〒100-8388 東京都千代田区丸の内2-7-1